短歌

河分武士
宮本照男
選

特選

密やかに洞（うろ）に潜める魚のごと
八十路半ばの耐える巣ごもり

芹橋二丁目　古池陽彦

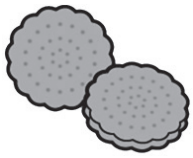
（評）　ウイルスの感染によるリスクは高齢ほど高いと言われ、外出も侭ならない。身の安全を考慮して「洞に潜む魚」に例え、作者の現況と我慢の様子を的確に表現されている。長期に亘る巣篭りに耐え、良き日が来るよう祈る心が見える。

特選

リモートの暮らしは母と子でつくる
シナモンクッキー春を告げをり

長浜市　勝木岩松

（評）　サクサクふわっとしたエキゾチックな香りに鬱々とした気分がほぐれるさまを感じ読む者も嬉しくなります。軽やかな流れがよい。



入選

わが魂を鎮めるごとく気づかひて
母の寝息を確かめてをり

野瀬町　中山敬一

（評）　母の病状や高齢を案じてのことか。自分の騒ぐ心を先ず鎮めてから、母の寝息を確かめているという。身近に起こった異常事態に、親を思う優しい心と冷静にならなければと、自分に言い聞かす様子が的確に詠われている。

入選

思い出を輪切りにしたり刻んだり
コロナ禍ひとり深夜目覚めて

大藪町　大塚しのぶ

（評）　独居生活の中では淋しさと心細さが付き纏う。増してやウイルスの感染が鎮まらない現状では、一層の不安が高まるであろう。真夜中に目覚めて寝付かれず、「思い出を輪切りにしたり刻んだり」と、回顧に耽る表現が読者に迫る。

入選

助詞ひとつ削るか否か迷うまに
洗濯物は雨に濡れおり

正法寺町　髙井豊

（評）　助詞の重要さを身をもって知っている作者ならではの歌。急な空模様の変化に洗濯物を取り込まねば…感情や意識の動きが感じられ印象的な作品となりました。

入選

淋しさに利く薬など見つからず
飴玉ひとつ口にころがす

鳥居本町　寺村美恵

（評）　過剰に踏み込んでくる自粛要請。ひたすら籠ることを受け止めることは難しい。上の句で心の呟きを表現しつつ結句への大胆な展開が諦めきれない微妙な事情を予感させ共感を得ております。

入選

早春賦口ずさみつつやわらかき
春の陽射しに老いの身晒す

本庄町　田口　敏子

（評）　陽気に誘われ、夢も希望も膨らむ頃には、早春賦を口ずさむこともあり、若かりし日が甦ってくる。老いの身には、外に出て日光浴などすると、健康や生き甲斐が湧く、耽々とした生きざまが、リズミカルに詠われている。

佳作

青空に両手を広げてシーツ干す
妻は朝陽を引き寄するごと

長浜市　野口成人

佳作

越冬の湖北大鷲謝意のごと
空を旋回して飛び去りぬ

地蔵町　佐古徳子

佳作

色あせしシャッターに貼らるる閉店ビラ
愛顧を謝する言葉の哀し

本庄町　田口洋子

佳作

どちらかが残る日の来る夫（つま）の背に
湿布貼りいるこの日常の

日夏町　寺村享子

佳作

何となく知りてゐる顔マスクせり
知らなくてもよし頭をさぐる

西今町　久永朝子

佳作

春時の種もち寄りて老い三人
種を分け合う半日かけて

犬上郡甲良町　村岸千鶴子

佳作

帰省女孫（まご）ぱっと明るく食卓に
牡丹一輪咲くかに眺む

日夏町　津野幹子

佳作

わらび採りふんばる足に力込め
大地の恵み今年もいただく

鳥居本町　西川作江

佳作

面会の一ヶ月延びまた会えぬ
夫の記憶にわれまだ居るや

犬上郡豊郷町　森典子

佳作

葉桜の土手を押し行く車椅子
遠き日語る老母（はは）は小声で

稲里町　勝見政恵

佳作

満開の花を見上げつ散歩する
夫と二人の至福の時を

芹橋一丁目　秋山栄子

佳作

そそぎゆく水きらめけばくれないの
牡丹の吐息きこゆるごとし

中藪町　山川美江

佳作

想い出に独り笑いをすることも
生きるよろこびコロナ禍の夜

近江八幡市　浅野忍

佳作

筆先のような蕾を開かせて
辛夷の花は春を呼び込む

米原市　西尾辰之

佳作

コロナ禍の記事の重みか束ねたる
古新聞がずしり両手に

古沢町　大橋しず

《総評》

昨年に始まった新型コロナウイルスの感染は依然として収まる傾向が無く、ワクチンの接種が待たれ、不安な日常が続いております。応募された作品にも一八〇首の作品の内五分の一の三六首がこれを反映しています。選ばれた中にも「時事詠」と呼べるコロナ禍の作品が多く、これらが歴史に残ります。

応募者数全体では六二名の内、年齢的には二〇代が一人、四〇代が一人の他は、殆どが六〇歳以上の高齢者であり、多くの人が長年短歌を続けておられるように見受けられます。テーマや歌の形態には個性溢れるものがあり、読み応えのある作品が多くあり、選考に時間をかけました。

高齢で熟練された作品には味わいがあります。しかし、若い世代の作品も見てみたいと、想いが募ります。当地の文学の歴史を紐解き、将来のことを考えますと、現状はどこまで続くのか不安があり、今後は私たちが後進を導き、地域の歌会には初心者にも参加を呼びかけ、文芸意欲を高めてゆく努力が必要であると強く感じています。

短歌は、字のようにみじか歌であり、その中に物語があり、根底に深い抒情が流れているから人の心を打ちます。語数を限られた定型詩が力を得るのはその一語、その一音が丹念に推敲を重ねているからです。助詞一つの推敲にも心を尽くすのが、歌人の誇りとなります。言葉が機械化し、心が淡くなる世に、宝石のように輝く歌をつくるために幾度か書き直し読み返して、推敲することが大切になってきます。

河分武士

今年も楽しみな当行事がやって参りました。目に見えない新型コロナウイルスの災禍に日本中が振り回されてすでに一年半となりました。

嘗てない行動の変容を求められた日々の中でこころの安定を持ち続けることに苦心した作品も見受けられましたが歌を詠むことへの真摯な姿が感じられました。同じ気持ちで詠み続けることは歌作りへの第一歩です。その蓄積は大きな財産となるでしょう。

入賞作品以外にもコロナのこと、ご家族との細やかなやり取り、生活者でなければ見過ごしてしまうような情景などなど印象に残る歌が見受けられたことは嬉しいことであります。

短歌は言うまでもなく三十一文字です。平仮名で書けば三十一字です。散文に比べればわずかな量しかありません。そこで一つ一つの言葉が大切になります。ぜひ投稿前にもう一度読み直していただきたいと思います。

また、短歌は何歳から始めてもいいし、何歳になっても歌い続けることができます。そのことを実感させる作品も多く見受けられました。

年々歳々花相似（年々歳々花相似たり）
歳々年々人不同（歳々年々人同じからず）

コロナ禍に在りましても尊い一日一日を願う歌から元気な力を頂き選歌いたしました。

ご投稿いただいた皆様に心から御礼申し上げますと共に益々のご健詠を期待しております。

感謝

宮本照男

選者吟

咲き盛り末枯るは浮世の常なるを
目を凝らし見る人の生死に

河分武士

ジレンマを抱えたままのハリネズミ
自分の位置を確かめており

宮本照男